

■「そのままの自分でいい」(小学校5年生)

わたしは4年生くらいのときにおばあちゃんに相談しました。「おばあちゃん。私は計算はおそいし、うんどうしんけいもわるいの。でも、わたしの友達はわたしにないもの全部もっているの。だからうらやましい。」そう言うとおばあちゃんは「あなたはそのままでもいいよ。あなたは変わらなくていい。あなたなりにいいところがあるんだから。」とかえしてくれました。そのひとことで、わたしは心がとてもあたたかくなりました。

■「いいよ、オレがやるから。」(中学校1年生)

友だちが「いいよ、オレがやるから。」と言ってくれました。僕は、とてもうれしい気持ちになりました。なぜなら、僕はいつも一人でやろうとするからです。『自分は一人じゃない!』と感じたことがうれしかったです。僕も人を支えられるようになりました。

■「無理な時は甘えていいんだよ」(高等学校1年生)

私は中学生の時からよく、我慢をするようになりました。言いたいこと、思ったこと、自分の正直な気持ち。我慢をした結果、無理をすることが多くなりました。高校三年生になった私の身近な存在に身体的にも精神的にも何年間も無理をしてずっと頑張り続けている人が現れました。私は、その人に「無理はよくない。無理して体壊れちゃったら意味ないし、無理な時は甘えていいんだよ。」と伝えました。するとその人は、何年間も我慢していたから私の肩でたくさんたくさん泣いていました。その出来事から、月日が経ちましたが、その人は私の隣でいつも幸せそうに笑っています。私がきついとき、「無理な時は甘えていいんだよ、って教えてくれたでしょ」と言われ、あったかい気持ちになりました。私は、その人になら我慢をせず、自分の気持ちを打ち明けられるようになりました。

■そのままでもいいんだよ(小学校6年生)

学校の図工の授業で思うように絵をかくことができなかったときに、先生が「そのままでもいいんだよ」と声をかけてくれました。そのとき私はそのままありのままの自分を絵に出せばいいんだと思いました。

■「今日『も』遊ば」(小学校6年生)

毎日のように友達に「今日も遊ば」とさそわれる。それに「も」という言葉がつくということは、毎日のように、友達と楽しく遊んでいるということ。その「も」という言葉の意味は、あまり考えたことがない人が多いと思う。けれど、「も」の言葉の意味を考えてみてください。「も」の言葉の意味は、「幸せのあかし」です。

■「何かあったらすぐおいで。」

私はあなたの味方だよ。」(中学校3年生)

僕は祖母が大好きだ。いつも相談事を聞いてくれて、必ず「何かあったらすぐおいで。私はあなたの味方だよ。」と言う。こんな祖母は世界に一人だけ。だから僕は祖母を大切に、毎日、祖母に会いに行く。

■「もう友だちだよ」(小学校3年生)

去年の夏休みにキャンプに行って、はじめは2人友だちがいたけれど、キャンプ先には、私より年れいがうえの子たちばかりで、声をかけることができなかったけど、もともと友だちの子といっしょに声をかけたら、「もう友だちだよ」って言われて、とてもこころがあたたかくなりました。

■「家族はいつでもあなたの味方だよ」(小学校5年生)

私は、クラスで孤立していて、いつも悲しい思いをすることがあります。たまに家で相談をしているのですが、あるときに「もう辛い」と一言だけ言って、私は大泣きしてしまいました。そのときに、母と父が「家族はいつでもあなたの味方だよ」と言ってくれました。そして、まだ妹は小さかったのに、心配するように頭をなでてくれました。この事があったから、今はめげずに学校に行けています。もし、あの事がなかったら、今ごろ不登校になっていたかもしれません。ママ、パパ、妹ちゃん、本当にありがとう。

■「みんな大好き」(子ども園保護者)

ばあばが大好きな息子にいたずらごろで「ママとパパとばあば、誰が一番好き？」と聞くと、「え〜、ぼくはみーんなだいすき!!」とひまわりのような顔で答えてくれてみんな幸せな気持ちになりました。

■おかえり(小学校5年生)

ぼくは病気にかかって1週間ほど学校をお休みしました。久しぶりの登校にわくわくした気持ちで学校に行きました。しかし、しばらく休んでいたのだから「なんで学校休んだ？」と答えにくい質問をされないか心配でもありました。教室のドアをいつもとちがう気分で開けると「おかえり」とうれしい一言でした。

